内視鏡センターにおける臨床検査技師教育

～タスクシフト/シェアと今後の課題～

◎中川 千恵美[1)]、東浦 晶子[1)]、刑部 陽香[1)]、井出 優奈[1)]、山下 いずみ[1)]、沖藤 水咲[1)]、橋本 眞里子[1)]、狩野 春艶[1)]
兵庫医科大学病院[1)]

【はじめに】臨床検査技師が内視鏡検査業務に従事している施設はまだ少ない。当院では臨床検査技師の業務拡大に取り組み、2015 年より内視鏡検査業務に携わっている。2021 年の臨地実習ガイドラインで、消化器内視鏡は必ず見学させる行為として追加された。

【背景】当院内視鏡センターにおける 2022 年度の検査件数は 13549 件(内訳:上部消化管 6619、下部消化管 5354、ERCP544、気管支鏡 314 ・その他 718)、医師、看護師（9 名）、臨床工学士（8 名）、および臨床検査技師（3 名）を主としたチーム医療を行っている。臨床検査技師は 5 名（専任 3 名、兼任 2 名）従事し、新人教育は、経験 1 年以上の技師と一部看護師で取り組んでいる。内視鏡検査の分野は大学での学習機会も少なく、その教育方法についての報告も少ない。当院で実施している内視鏡検査業務と新人技師の教育手順・評価基準およびその成果について主観・客観的見聞を得たのでその成果を報告する。

【方法】内視鏡検査業務は基本的な患者ケアに加え、解剖学や内視鏡検査、機器に関する幅広い専門的知識や技術が求められ、常に迅速かつ適切な対応やマネジメント力を習得するためのトレーニングが必要である。業務内容の達成目標期限の設定と現状把握を目的として①検査項目ごとの教育計画カレンダーや看護師からの看護技術のレクチャー計画表②技術到達一覧表とチェック表③1 週間ごとの技術達成度のチェック表を作成し、③には自己評価欄を設け教育担当者による評価を行った。【成果】①計画表を作成したことで、教育担当者・新人技師双方が課題と期限を意識することができた。②技術達成一覧表を作成したことにより一目で進捗確認でき、スタッフ間での情報共有を図ることができ効率化にも繋がった。③新人技師の詳細なチェック表の使用により、成長度が可視化でき自信に繋がり不安感が低減した。

【まとめ・今後の展望】内視鏡検査は、多職種の連携が必要不可欠な分野である。今後はタスクシフト/シェア推進のためにもさらなる患者ケアや内視鏡治療への参画など多方面で臨床検査技師が活躍できるよう意欲的に活動を広げていきたい。